

発症直後投与の必要なし

脳梗塞の治療で使われる薬剤「スタチン」について、少なくとも軽症患者には発症直後から投与する必要がないことを、兵庫医科大の研究グループが突き止めた。入院後24時間以内と7日後からの投与を比較し、3カ月後の生活の自立度合いに差がないことを確認した。米国の国際脳卒中学会で25日、発表する。

グループの吉村紳一主任教授（脳神経外科学）は「写真は「予想外の結果」とし「投与期間が短くなれば医療費が削減でき、誤嚥性肺炎や肝障害など副作用の回避にもつながる」と話す。

スタチンは高コレステロール血症の治療薬で血管拡張や抗血栓などの作用があり、脳梗塞の再発予防にも効果がある。急性期に投与すると病状の経過が良くなるという報告

兵庫医科大のグループ解明

生活自立度に影響なく

がある一方で、直接的な実証データはなく、医療機関によって使用状況にはらつきがあったという。

研究は兵庫医科大大病院などの11施設で、脂質異常症があり、口から薬が飲める軽症の脳梗塞患者を対象に実施した。投与開始が24時間以内と7日後のグループを比較。3カ月後に後遺症がなかったり軽度だったりしたのは、24時間以内が131例のうち91例（69%）、7日後は126例中84例（67%）と、ほとんど差は見られなかった。

同大臨床研究支援センターの森本剛副センター長は「再発予防のために飲む必要はあるが、患者が運び込まれたときに救急医が飲ませる必要はない」と指摘する。



（森 信弘）